

基本  
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

## 整形外科の紹介

### 整形外科・ケガや手術をしても健康であるために



整形外科医長  
吉川 教恵



整形外科  
吉留 綾



整形外科  
岩佐 一真

#### 介護が必要になった原因

1位	脳血管疾患	18.5%
2位	認知症	15.8%
3位	高齢による衰弱	13.4%
4位	骨折・転倒	11.8%
5位	関節疾患	10.9%
6位	心疾患	4.5%

近年、日本は、長寿社会を迎え、新しい概念として、ロコモティブシンドローム（ロコモ）、フレイル、サルコペニアが注目されるようになってきました。この3者には、密接な関係があります。サルコペニアは、加齢に伴い筋量が進行性かつ全身性に減少することにより、筋力または歩行速度が低下してくる疾患とされており、運動器の障害（骨折、骨粗鬆症、変形性関節症や変形性脊椎症など）により移動能力低下をきたすロコモの概念の一部と言えます。またフレイルは、老化に伴い、身体の予備能が低下し、健康障害を起こしやすくなつた、健常と要介護の中間的な状態で、日ごろの生活習慣によって要介護に移行することもあり、逆に健常な状態に戻ることも可能な状態のことを言います。フレイルには身体的フレイルと精神心理的フレイルと社会的フレイルがあり、中でも身体的フレイルはサルコペニアやロコモの影響を大きく受けることが知られています。

厚生労働省の国民健康生活基礎調査によると、要介護の原因是、3位にサルコペニアやフレイル、4位と5位に運動器の疾患が続き、3位のすべてが運動器に関わるところではないですが、要介護の原因に「運動器疾患」の占める割合が最も多くなっています。このことから、健康寿命を高め、生活の質（QOL）を高めるために、運動器の障害を早期から予防、また、運動器疾患に罹患した後もフレイルから要介護状態へ移行しないような取り組みが必要といえます。当院では大きく

2つの取り組みを行っております。

まず、一つ目は、院外へ向けたロコモやフレイルの啓発活動です。当院で開催している市民のための健康講座において、ロコモやフレイルについて広く知って頂き、ロコチェックを行い、栄養士や理学療法士から実践的な栄養指導やロコトレを紹介し、これらの予防を行っています。

二つ目は、入院中の取り組みです。骨粗鬆症に伴う骨折（脊椎圧迫骨折、大腿骨近位部骨折など）では、入院中の不適切な安静や栄養管理が原因となる医原性サルコペニアが問題となっています。当院では、その防止策として、早期の離床、経口摂取、必要に応じたりハビリテーションの早期介入を行い、活動を促すとともに、管理栄養士とともに適切な栄養管理を行い、リハビリテーション後の必須アミノ酸BCAA (branched-chain amino acid) 摂取により筋タンパクの合成を促したり、薬剤師によるポリファーマシーの改善を含めた薬の見直しを行うなど、多職種で関わりながら、受傷前の状態に戻すような取り組みを行っています。2018年3月には、在宅サポート病棟（地域包括ケア病棟）を開設し、リハビリテーションだけでなく、併存疾患に対しても内科と協働し管理を行うことで、在宅への療養復帰に向け準備を行い、安心して住み慣れた場所へ退院ができるようになりました。

今後も、都城地区の健康寿命延長、QOL改善のために、努めていきたいと考えています。

## 全国がん登録研修会の実施について

全国がん登録研修会が、当院で令和元年7月12日開催されました。宮崎大学医学部附属病院宮崎県がん登録室の主催で行われています。

全国がん登録は、がん登録推進法に基づき平成28年1月から開始されていますが、宮崎県内では、平成27年度の制度開始以降、がん登録に関する研修会の開催はありませんでした。そこで、宮崎県がん登録室の担当の方が中心となり、①がん登録の目的を学ぶ、②届出票の内容について学ぶ、③施設間の交流ができる機会とする、の3項目を主眼とした研修会を企画して頂きました。

宮崎県西地区の20医療機関27名の参加で行われ、当院からも2名参加させて頂きました。担当の交代もあり、1から学び直すことができ、大変勉強になりました。また、他の施設の方と交流できたことも有意義でした。他の参加者の方からも『このような研修会をどんどん開催してください』、『演習問題があつて分かりやすかったです』等のご意見があったようです。今回の研修会で学んだことを、登録業務に活かしていきたいと思います。

本研修会を企画頂いた宮崎大学医学部附属病院宮崎県がん登録室の方々に改めてお礼を申し上げます。

(専門職 鳥越 隆徳(がん拠点病院事務担当))

## 統括診療部長退任のご案内

平素よりお世話になっております。

この度、令和元年7月31日付で、統括診療部長を務めておりました 後藤 又朗 が退任致しましたのでここにご連絡いたします。

なお、後任の統括診療部長につきましては着任し次第改めてご挨拶させていただきます。

また、乳腺の診療につきましては外科にて引き続き対応いたしますのでぜひご相談ください。



# メディカルキッズ医療体験ツアー

毎年恒例の「メディカルキッズ医療体験ツアー」が令和元年7月30日～7月31日に当院で行われました。この体験ツアーは、地域の小・中学生の職場体験と将来の医療に携わる人材の確保を目的に、今年で6回目を迎えました。初日の7月30日は中学生20名、31日は小学生20名を対象に行いました。都城市内の小中学校へ応募を募り、今年は中学校からは66名、小学校からは350名の応募があり、年々応募者数も増えています。

体験内容は、「エコ一体験」、「縫合体験」、「超音波凝固切開装置（ハーモニック）を使用した体験」、看護師体験では「採血体験」、「包帯法」、「創傷処置」、その他「高齢者体験」、「車いす体験」、「BLS体験」などを企画しました。今年度は、薬剤部の「調剤体験」も新たに加わり、医療に携わる職種についてさらに理解を深めることが出来る充実した内容となりました。参加した中学生、小学生は、白衣や手術衣を着て医療職員の一員となり、真剣な表情で、担当した医師、看護師、検査技師、薬剤師の説明を聞き体験に臨んでいました。「病院で働きたい」などの感想も聞かれ、病院で働く色々な職業にも興味を持ってもらうことが出来ました。体験を通して、身体の不自由な方のサポートをする大切さや、救命に携わる勇気などこれからの中日常の中でも役立つ体験になったのではないかと思います。最後に、院長より修了書が授与され、その表情から楽しく満足のある体験に繋がったのではないかと感じました。今回のツアーに参加した小中学生が医療への興味・関心を持ち続け、将来医療職で活躍することを願っております。

(教育・研修部副部長 和氣 美紀)



縫合体験



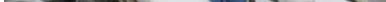
内視鏡体験



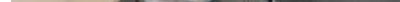
超音波凝固切開装置体験



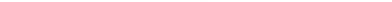
BLS 体験



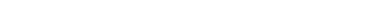
顕微鏡体験



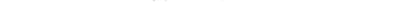
創傷処置



ECG 体験



顕微鏡体験



創傷処置

調剤体験

呼吸音聴診

創傷処置

## 看護学校オープンキャンパスを開催して

看護学校において、7月20日(土)と7月28日(日)にオープンキャンパスを開催いたしました。第1回目は63名、第2回目は94名多くの皆様にご来場いただきました。

本年度は例年の「看護技術体験」に加え、「模擬授業」を開催いたしました。参加者の皆様には在校生の案内により、各ブースを自由に回りながら、様々な体験をしていただきました。アンケートの結果から、最も印象に残ったのは、「学校案内」、次いで「在校生とのフリートーク」、「赤ちゃん抱っこ・妊婦体験」であり、学校生活を具体的にイメージし、看護の道を志す進路の参考にしていただく機会となりました。

アンケートの自由記述からも、「模擬授業がとてもわかりやすく楽しかった」、「イメージが膨らんだ」など、肯定的な意見が多く聞かれ、多くの反響を得ることができました。また、保護者の皆様からも、「とても勉強になりました。学生さんの優しい対応にも嬉しく、子どもたちはよい経験になったと思います」などの感想をいただきました。

次年度の開催時期については、受験生の進路決定のスケジュールに応じて検討し、本校を選択肢の一つとして選んでいただけるように調整を図っていきたいと考えています。また、ご都合のよい時間帯に参加できるように設定し、より多くの皆様に看護や本校に興味関心を高めていただくような楽しい催しを企画いたします。

表1：参加者内訳

( ) 内は平成30年度

参加者内訳	受験対象者	保護者	合計
第1回：7/20（土）	34名（53）	29名（44）	63名（97）
第2回：7/28（日）	52名（42）	42名（30）	94名（72）
2日間合計	86名（95）	71名（74）	157名（169）

表2：アンケート回答者内訳（2日間合計）

アンケート回収率94.0%

内訳	高校1年生	高校2年生	高校3年生	社会人	保護者	その他	合計
人数	0	22	63	2	55	4	146

表3：オープンキャンパスの情報源 複数回答（2日間合計）

情報源	当校ホームページ	高校	学校案内に同封のチラシ	宮崎ナースtoday2019	都城医療センター掲示物	先輩・友人・知人など	その他
人数	86	19	9	18	4	51	1

表4：印象に残った企画 複数回答（2日間合計）

企画	学校案内	模擬授業			体験学習		進路相談	在校生とのフリートーク	その他
		老年看護学	母性看護学 (7/20のみ)	小児看護学 (7/28のみ)	高齢者体験	赤ちゃん抱っこ・妊婦体験			
人数	71	55	25	22	55	65	27	66	1

## いきいき茨城ゆめ国体2019に出場して

私は今年初めて薙刀競技の宮崎県代表として、9/28～10/8に開催されたいきいき茨城ゆめ国体に出場させていただきました。競技内容は、綺麗さをペアで競う「演技競技」と防具を装着して3対3で戦う「団体競技」の2種目に出了場しました。

「演技競技」では、奈良県の選手と戦いました。結果は0-3で敗れてしましましたが、緊張することなく、練習の成果を発揮できたので満足しています。「団体競技」では、岩手県の選手と戦いました。団体競技で試合に出場するのは初めてだったので、とても緊張しました。結果は敗れてしまいましたが、自分なりに攻めていくことができたので、悔いは残っていません。

今回の試合をとおして、普段は見られない県外の選手の技や、多くの人々との交流を深めることができました。これらの経験を活かして来年も大会に出場できるように日々の練習に励み、1勝できるように頑張ります。多くの皆さんに応援をいただき、ありがとうございました。

(1年生：中窪 桜子)



## NST(栄養サポートチーム)専門療法士教育研修を開催しました

昨年に引き続き、第3回NST専門療法士教育研修を令和元年7月8日～7月12日の5日間にわたり開催しました。参加者は都城市の病院から4名、鹿児島県から7名、熊本県から1名、沖縄県から1名、当院から3名の合計16名でした。「栄養サポートチーム加算」は2018年の診療報酬改訂にて算定要件が緩和されましたが、今回の研修で専任スタッフを充実させてNST体制を整えたいとの相談が多く、県外施設からの参加が多かった状況です。参加職種は、管理栄養士7名、看護師5名、薬剤師4名でした。講師はNST専任（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）の他、歯科医師、歯科衛生士、臨床検査技師、作業療法士に加え、皮膚・排泄ケア認定看護師、緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師と、各部門の協力のもと無事に開催することができました。内容は専門性を生かした講義やワークショップ、濃厚流動食を使った実習や試飲、栄養機器関連の展示などで、栄養投与量の計算や症例検討など実際に見たり体験をしたりすることで、実践的な理解につながり好評でした。当院では栄養関連で日々困っていること、栄養に関する相談などをE-mailで受け付けており、ホームページの組織横断的チーム（NST栄養サポートチーム）から相談できるようになっております。地域の栄養管理に貢献できますよう今後も取り組みを継続してまいります。



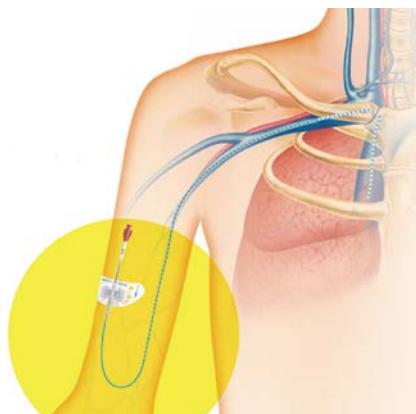
(主任栄養士 廣石 さやか)

## 「PICC外来」開設のご案内

この度、当院において末梢挿入式中心静脈カテーテル：PICC（Peripherally Inserted Central Catheter）の挿入を行う「PICC外来」を開設いたしました。

PICCとは、通常、肘や上腕から挿入する中心静脈カテーテルです。他の中心静脈カテーテルと比較して、腕から比較的簡単に挿入でき、合併症のリスクが少なく、長期間の留置が可能です。当院では、静脈炎の発生頻度が低く、患者の腕の可動域に制限を与えるにくいという観点から、上腕から挿入するPICCを主に取り入れています。穿刺可能な血管が視認できない場合は、エコーチューブ下で血管を確認する事で穿刺が可能となっています。

管理方法としては、基本的には1回/週の消毒とドレッシング材の交換だけで良いです。入浴は、カテーテルを覆っているドレッシング材の上からラップなどを巻き、カテーテルが濡れないように保護すれば可能です。



PICCの適応は、経口摂取が困難でTPNを施行する患者、継続的な化学療法を施行する患者、血管刺激性の強い薬剤投与が必要な患者、末梢静脈ルートの確保が困難な患者などが挙げられます。2025年の超高齢化社会に向けて、今後在家療養での中心静脈栄養を投与する患者も増加することが考えられます。それを行う為の方法として、PICCも有効な選択肢であると考えます。当院では診療看護師が中心となりPICC外来を運営しております。該当の患者がいらっしゃいましたら、是非ご相談ください。

(診療看護師 原田 由紀子)

## 第10回 市民フォーラム

第10回市民フォーラムを、都城市、都城保健所との共催で、令和元年9月28日にウエルネス交流プラザで開催しました。

今回のテーマは「人生会議～最後までどうやって生きるか～」とし、講演を企画しました。また、講演前の時間を利用して、参加者の皆さんのがんの健康に対する疑問に気軽に相談できるように、医師による健康相談、看護師、薬剤師、栄養士による各種相談コーナーを設けました。

講演では、初めに都城市健康部健康課より「そうだ!検診に行こう」という演題で、がん予防のための検診の重要性についてお話しいただきました。次に、都城保健所健康づくり課より「目指せ!健康長寿日本一」という演題で、食生活における野菜の摂取と減塩についてお話しいただきました。また、当院歯科口腔外科部長の田畠雅士先生に「口腔ガンとは」という演題で、一般的にはあまり馴染みのない口腔がんについての予防、早期発見についてのお話をいただきました。



特別講演では、宮崎市郡医師会病院緩和ケア科医長の内藤明美先生に「大切な人と考えてみませんか あなたの生き方終(しま)い方」というテーマで、人生の最終段階における治療やケアについて事前に考え、身近な人と話し合っておくことの重要性についてお話しいただきました。

また、先生の緩和ケア病棟での経験から、今生きていることは決して当たり前ではないこと、日々を大事に生きることの大切さについてもお話しいただきました。

参加された方からは、「自分の終活について深く考えさせられた」、「一日一日を大事に生きたいと思った」、「大変勉強になった」などの感想をいただきました。

今後も地域がん診療連携拠点病院として、地域の方々の健康の増進と、がんの予防及び早期発見の推進のための取り組みを継続していきます。

(経営企画係長 安永 朝誠)

## 「盆地まつり」参加

令和元年8月3日(土)、猛暑のなか都城市最大の夏祭りである「盆地まつり」に参加しました。

職員有志による総踊りの他、広場にブースを構え、血圧、血管年齢、肺年齢等の測定・救急車の展示を行いました。



# 外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30～11:00

【2019年11月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液	前田 宏一		佐藤 誠一	
		肝	加藤 順也			
	再 診		前田 宏一 佐藤 誠一	加藤 順也 佐藤 誠一	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 誠一	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 高智
循環器内科		一般	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩
		特殊		心筋症外来 (午後)		
呼吸器内科		初診	今津 善史		今津 善史	
		再 診		今津 善史	小田 康晴	今津 善史
呼吸器外科		初 診		巻幡 聰	巻幡 聰	
		再 診	手術日	巻幡 聰 加藤 文章	手術日 巻幡 聰 加藤 文章	手術日
小児科	午前	1 診	内村 絵美	柳邊秀一	落合佳代	下田 貴史
		1 診	柳邊秀一	内村 絵美	下田 貴史	柳邊秀一
	午後	2 診	落合佳代	襄 孝竣	襄 孝竣	内村 絵美
		3 診			シナジス外来 (8月～3月)	
外科		初 診	緒方健一		田中 洋	緒方健一
		再 診	田中 洋		光浦智証	杉原栄孝
		特 殊	乳腺(緒方健一)		乳腺(田中 洋)	乳腺(緒方健一)
消化器病センター		初 診	藤原利成	駒田直人		土肥容子
		再 診	土肥容子	藤原利成	駒田直人成	駒田直人子
NST 外 来			駒田直人 (第二、四火曜日 14:00～16:00)			
整形外科		初 診			吉川教恵	
		再 診	吉川教恵 岩佐一真	吉川教恵 吉留綾	吉川教恵 吉留綾	吉川教恵 吉留綾
		特殊検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査	骨粗鬆症検査
リウマチ科 ※2		吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)	手術日	吉川教恵 (初診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)
泌尿器科		1 診	手術日	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
		2 診		慶田喜文		慶田喜文
皮膚科			中山文子 (9:30～13:00)		中山文子 (9:30～13:00)	中山文子 (9:30～13:00)
産婦人科		初 診	徳永修一	古田 賢	徳永修一	古田 賢
		再 診		徳永修一	古田 賢	徳永修一
耳鼻咽喉科		一 般	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾
		難聴外来	津曲省吾 (14:00～17:00)			
放射線科		放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
		画像診断	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科		一 般	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞
		ペインクリニック				横山幸三 (終日・手術/外来不定期)
		障がい者歯科				森主宣延 (月2回)
がんサポート外来						岩崎竜馬
緩和ケア外来						林章敏 (第四金曜日)
特 殊 外 来		マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来 PICC外来 (午後)	ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00～15:00)

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。

※2 医療機関の方へ:血液内科、リウマチ科の初診については、事前に初診紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人  
国立病院機構

## 都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・  
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会